《第 62 号》*** 本がつなぐコミュニケーション ***

読書し、知識を得るだけが本の使い道ではありません。近年、本をコミュニケーションツールとして利用する取り組みが注目され、各所で様々なイベントが開催されています。今回は、その中でも特に代表的な「ビブリオバトル」と「ブクブク交換」についてご紹介します。

◆ビブリオバトル

本学でも１年生の教養科目(H28 年度は後期選択)でお馴染みのビブリオバトルは、「知的書評合戦」とも呼ばれています。2007 年に京都大学に在籍していた谷口忠大氏によって発案されました。研究室内の勉強会で使用する本の選書が発端でしたが、発表者の人柄が顕著に表れやすいことから、次第にお互いを理解し合うゲームへと発展して行きました。公式ルールは、 ①発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる ②順番に１人5分間で本を紹介する ③それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3 分行う ④全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする というものです。紹介される本や話し方を通して発表者の個性が表面化し、さらに所属するコミュニティー内で共有されることにより円滑な人間関係の構築が期待できます。また、発表を通してプレゼン能力も鍛えられることから、大学などの教育機関で盛んに行われる傾向があります。その他にも一般企業の研修・勉強会、図書館、書店、サークルなど様々な場所に広がりを見せており、大規模なものでは活字文化推進会議主催の全国大学ビブリオバトル、全国高等学校ビブリオバトルが各地区大会を経て開催される等、注目度の高さが伺えます。

◆ブクブク交換

イベントプロデューサーのテリー植田氏によって 2010 年に発案された本の交換会です。参加者が各自持参した本(何冊でも OK)について、面白かった点やエピソードなどを紹介し、それぞれの発表後に参加者全員で自分が読んでみたいと思った本と交換します。基本的にはビブリオバトルと似た特性を持っていますが、こちらは実際に現物を持参・交換できるメリットがあります。プレゼンを聞いて気になる本は交換してすぐに読む事ができます。また、埋もれていた蔵書を見直すきっかけとなり、本棚の整理整頓に役立ったとの感想も聞かれます。こちらのイベントは実際に図書館員の間で開催したことがありますが、自分が持参した本の魅力を伝えたい・誰かに選んでもらいたいと思うと発表にも自然と熱がこもるものです。そうして交換した本は発表者の人柄と共に記憶に残り、思い入れのある１冊となるように感じました。

日々の中でお互いの理解を深めることはなかなか難しいですが、本を介すれば無理なく自然にコミュニケーションを取ることが可能です。今回紹介したイベントは、いずれも時と場所を選ばず簡単に行えるので、是非、職場や家庭、仲間内などで気軽にチャレンジしてみてください。参加者同士、新たな一面を発見することができるかもしれません。

＊＊＊図書館トリビア＊＊＊

図書館では、「ビブリオバトル in 岩手医科大学」の最終決戦を記録した DVD を所蔵しています(第１回、第２回大会)。予選を勝ち抜いた発表者達による熱いバトルは一見の価値ありです。なお、最終決戦に進んだ発表者の紹介本は全て図書館に蔵書がありますので、気になる・興味がある紹介本は実際に読むこともできます(いずれも貸出可)。本学のビブリオバトルについてもっと知りたい方は、是非図書館をご利用ください！

メールマガジンに関するご意見・ご質問は、図書館 tosho@j.iwate-med.ac.jp まで。
＜編集・発行＞ 岩手医科大学附属図書館